

Title	石斧と雷
Sub Title	
Author	松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.3 (1931. 9) ,p.198(540)- 198(540)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310900-0198">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310900-0198</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 石斧と雷

石斧のこゝを雷斧さか、霹靂斧さか、雷の撥なごさ稱したさいはれるが、一體これはどういふ意味であらうか。天から降つてきたものさいふ意味であるさいひ、或は石匙を天狗の飯匙さいつたさ同じやうに、難解のものに對する附會にすぎないさいひ、或は支那の文献から得た名稱であるさいはれるが、たゞそれだけのものにすぎないのであらうか。支那の文献にこの名稱があるさすれば、支那での本來の意味はごうであつたか。フランスのブルターニュのカルナック附近においても、石斧を *Men Gun* 即ち雷石と呼んで、雷除けのために煙突の中に置くさうである。石斧の如何なる性質が雷除けの呪力を有するのか。またブルターニュのこの信仰が、日本において石斧を雷斧さよぶこゝと、何等かの關係を有しはしないか。これらの疑問について、示教を得たい。(松本芳夫)